



円相場、大幅安 147円台後半 米景気懸念が後退

9日早朝の東京外国為替市場で、円相場は大きく下落している。8時30分時点は1ドル=147円62~64銭と前日17時時点と比べて1円78銭の大幅な円安・ドル高だった。雇用関連指標の改善を受けて米景気を巡る過度な懸念が後退。8日に米長期金利が上昇し、日米で金利差が大きく状態はしばらく続くとして円売り・ドル買いが膨らんだ。

8時すぎに円は147円83銭近辺まで売られる場面があった。8日発表された週間の米新規失業保険申請件数は23万3000件と前の週（25万件）から減り、市場予想も下回った。7月の米雇用統計をきっかけに広がっていた米景気後退への警戒感が和らいだ。8日は米長期金利が節目の4%台に乗せる場面があるなど上昇の勢いを強め、円売り・ドル買いにつながった。

株安が一服しているのも円相場の重荷となっている。8日の米株式市場ではダウ工業株30種平均など主要な米株価指数が大きく反発した。大阪取引所の夜間取引では日経平均先物が8日の清算値を大きく上回って終えており、投資家のリスク回避姿勢が後退するとの見方が広がっているのも「低リスク通貨」とされる円の売りを促した。

円は対ユーロでも大きく下げ、8時30分時点は1ユーロ=161円13~17銭と、同1円58銭の円安・ユーロ高だった。株安が一服していることで対ユーロでも円売りが優勢となった。

ユーロは対ドルで下落している。8時30分時点は1ユーロ=1.0915ドル前後と同0.0024ドルのユーロ安・ドル高だった。



原油が続伸、円下落で割安感 金は反発

9日朝方の国内商品先物市場で、原油は続伸して取引を始めた。取引量が多い2025年1月物は1キロリットル6万8800円と前日の清算値に比べ1500円高い水準で寄り付いた。東京外国為替市場で円相場が下落していることで、円建てで取引される国内原油先物の割安感を意識した買いが優勢となっている。

8日発表の週間の米新規失業保険申請件数が前の週から減り、米景気減速懸念が和らいだ。8日の米株式相場で主要3指標が上昇したこともあり、リスク資産を買う流れから8日のニューヨーク原油先物相場が上昇した。これを受け国内原油先物に買いが波及している。

金は反発している。中心限月の25年6月物は1グラム1万1527円と前日の清算値を255円上回る水準で取引を始めた。外国為替市場での円相場下落をきっかけに、円建ての金先物に買いが入っている。

白金は4日続伸している。中心限月の25年6月物は1グラム4450円と前日の清算値を104円上回る水準で寄り付いた。



石油資源開発の純利益上振れ 25年3月期、販売単価上昇

石油資源開発は8日、2025年3月期の連結純利益が前期比18%減の440億円になりそうだと発表した。従来予想から12億円上方修正した。原油や天然ガスの販売単価が高まり利益の押し上げにつながる。

売上高の予想は10%増の3584億円と210億円引き下げた。イラクの油田開発事業で想定よりも販売量が落ち込む。

同日発表した24年4～6月期の連結決算は、純利益が前年同期比12%減の114億円だった。49.9%を出資していたノルウェーの石油・ガス開発会社がのれんの減損損失を約10億円計上したことを受け、持ち分法投資損益が悪化したことが響いた。



化学、全7社で営業損益改善 4~6月、石化底入れ寄与

化学大手7社の2024年4~6月期決算が8日、出そろった。営業損益は全社で前年同期に比べて改善した。石油化学製品の市況底入れが寄与した。半導体材料の需要もAI（人工知能）向けを中心に回復基調にある。一方外国為替市場で円高傾向が強まる場合は業績回復に水を差す可能性がある。

化学大手7社の連結業績			
社名	24年4~6月		24年度の 最終損益予想
	営業利益	最終損益	
信越化	1910(微増)	1440(▲6)	5330(2)
三菱ケミG※	849(22)	396(▲7)	520(▲57)
旭化成	498(2.3倍)	340(3.6倍)	1000(2.3倍)
三井化学※	272(96)	178(87)	730(46)
東ソー	198(46)	162(23)	590(3)
レゾナック	190(黒字化)	113(黒字化)	345(黒字化)
住友化※	114(黒字化)	243(黒字化)	200(黒字化)

(注) 単位億円。カッコ内は前年同期比増減率%、▲はマイナス。24年度はレゾナックが24年12月期、他は25年3月期。※は国際会計基準

NIKKEI

レゾナック・ホールディングスが8日発表した1~6月期の連結決算は、最終損益が384億円の黒字（前年同期は198億円の赤字）だった。AI半導体の基幹部品である先端メモリー「HBM（広帯域メモリー）」向けの絶縁材料などが伸びた。石化事業ではナフサの価格上昇で在庫の評価益が膨らんだ。

4~6月の3カ月の最終損益も113億円の黒字（前年同期は75億円の赤字）と大きく改善した。好調な実績を踏まえて24年12月期通期の業績予想を上方修正した。連結最終損益は345億円の黒字（前期は189億円の赤字）と従来予想から95億円引き上げた。

化学大手の4~6月期決算は石化事業の採算が改善した。原動力は市況の底打ちだ。三菱ケミカルグループは営業利益が前年同期比22%増えた。需要は低調だったが供給制約が強まったことでアクリル樹脂原料MMAの価格が持ち直した。税負担が増え純利益は減った。

三井化学は石化事業のコア営業損益が40億円の黒字（前年同期は10億円の赤字）に転換した。基礎化学品エチレンなどを原料とする派生製品のポリオレフィンの値上げを進めたことで採算が良くなった。

半導体材料は回復に温度差がある。信越化学工業では主力の半導体ウエハー事業で口径300ミリ製品の需要が4~6月期から回復している。AI向け需要がけん引し、半導体メモリーのDRAM向けが先行している。轟正彦取締役は「ウエハー需要はようやく底打ちした」と話した。



ウメモト インフォメーション



2024年 8 月 9 日 担当 瀬谷

汎用向けは回復が鈍い。車載や産業用の200ミリウエハーは低調で、三井化学では製造工程で使う樹脂テープ「イクロステープ」などの回復が期初想定より遅れている。東ソーは製造装置の部材に使う石英ガラスの在庫解消が遅れて出荷が減った。

住友化学は4～6月期の最終損益が243億円の黒字と7四半期ぶりに黒字転換した。医薬事業の構造改革が奏功したほか、半導体向けなど電子材料の伸びも想定を上回った。円安も利益を200億円近く押し上げた。



東京都、ヒートアイランド対策で「遮熱性舗装」拡大

都市部の気温が郊外に比べて高くなるヒートアイランド現象の対策として、東京都は路面の温度上昇を抑える「遮熱性舗装」などを拡大している。2024年3月までに都道190キロメートルで改修を終え、30年度までに計245キロメートルの整備を計画する。都心部の気温上昇の緩和を目指す。

8月初旬、東京都港区の表参道駅近く。日差しが照りつけ、気温は30度を大きく超える。普通自動車などが多く行き交う大通りで、白色系と黒色系の道路の境目がはっきり分かれる場所が目立つ。従来と異なる白色系の道路は、都が整備を進める遮熱性舗装だ。

都は05年度からヒートアイランド対策として、都心部の都道で遮熱性舗装と保水性舗装を進める。従来から計画された路面補修工事に合わせて舗装をし直し、費用を抑える。首都高速道路の下を通り、日陰になる都道などは対象から外す。



遮熱性舗装は太陽光を反射する白色系の遮熱材を道路の表面に塗り、路面温度の上昇を抑える。都によると最大で8度ほど路面温度上昇を抑える効果があるとされる。表層から5センチメートルには隙間の多い構造のアスファルトを用いて騒音対策も施す。

保水性舗装では雨水を吸い込む保水材を詰める。保水された水分が蒸発する際、気化熱によって路面温度の上昇を抑える手法だ。

都は騒音対策も兼ねる遮熱性舗装を中心に整備を進める。23年度末までに都道の168キロメートルを遮熱性舗装に、22キロメートルを保水性舗装に更新した。30年度までに245キロメートルを整備する目標を掲げる。

一方で、新しい舗装の整備が目に見える都心の気温の低下につながっていないという指摘もある。林立するビルや自動車からの排熱など気温を上昇させる外部要因が大きすぎることが原因とみられる。

都建設局道路管理部の和田真治課長は「ヒートアイランド現象の対策に特効薬はない。遮熱性舗装に効果があることは間違いなく、整備を進めていきたい」と話している。



2024年 8 月 9 日 担当 瀬谷

道路舗装材にCO2固定… 日本道路と清水建設が開発、バイオ炭混合物の効果



日本道路と清水建設は、二酸化炭素（CO₂）固定効果のあるバイオ炭を添加した環境配慮型アスファルト混合物「バイオ炭アスコン」を開発、製品化した。アスファルトに混ぜる砂の一部をバイオ炭で代替。一般的なアスファルト混合物と同等の施工性と品質を保持したまま、バイオ炭の添加量に応じたCO₂排出削減効果が得られる。今後、日本道路がバイオ炭アスコンを製造・販売し、道路舗装での採用を提案していく。

清水建設の建材にバイオ炭を混合するノウハウと、日本道路のアスファルト合材の製造技術を融合して開発した。販売製品のバイオ炭添加量は、1トン当たり26キログラムを上限に、顧客の要望に応じて調整できる。

バイオ炭アスコンの炭素含有率は約9割で、1キログラム当たり実質2・3キログラムのCO₂を固定したオガ炭を使用。一般的なアスファルト混合物は製造時のCO₂排出量が1トン当たり約56キログラムとされる。同26キログラムのオガ炭の添加により、CO₂排出量が実質ゼロになるカーボンニュートラル（温室効果ガス〈GHG〉排出量実質ゼロ）を実現できる。